

## 要 請 書

羽村市の行政運営につきましては、平素から格別のご配慮をいただき厚くお礼申しあげます。

さて、多摩都市モノレール建設事業につきましては、第一期工事として多摩センター・立川・東大和市上北台間の事業に着手しております。

その後、東京都の第三次長期計画において、次期整備路線として瑞穂町箱根ヶ崎方面への延伸が計画化されたことに伴い、構想路線上にある隣接の羽村市としても「次は当市方面の事業化を」という機運が非常な勢いで高まっております。

市制施行を機に将来の都市像を「人と自然にやさしく活力あふれるまち はむら」と定め、近隣市町村と相い携えて自立都市の形成に向けたまちづくりを推進している当市にとりまして、交通網の整備は最重要課題であります。しかしながら、現在の交通網をみえますと、東西方向に伸びるJR青梅線を除き、さしたる公共交通機関がないのが実情であります。

このため、多摩都市モノレールは、二十一世紀を展望したまちづくりを推進している当市の新交通システムとして、また市内において活動中の工業団地に係る従業員等の足の確保や近隣及び多摩地域市町とを結ぶ唯一の公共交通として、構想が発表された時点からその実現を熱願しているものであります。

このようなことから、多摩都市モノレール実現の声は全市に広がり、市議会には「多摩都市モノレール建設促進特別委員会」が設置されるなど、行政と議会さらには市民が一体となって多摩都市モノレール建設の具体化に向けた運動を展開するとともに、羽村市ルートの早期事業化をされたい旨、今日まで貴職に要請を重ねてきたところであります。

このような中、去る十二月三日付の読売新聞に、次期整備路線の調査を進めている「多摩都市モノレール次期整備計画調査委員会」が、次期整備路線として「構想路線七路線のうち当市を通過する箱根ヶ崎―秋川路線ほか二路線を除く四路線に絞って選定を検討している」旨の報道がなされました。

折しも、モノレール受入れ口である羽村駅西口地区については、土地区画整理事業に着手すべく、今年度に入り、地元説明会を開催し、モノレール乗り入れを想定した土地区画整理事業の実施について、地権者及び関係者の了解を得たところであり、実施のための具体的な作業に入る矢先の新聞報道に、モノレールの早期実現を熱望している市民をはじめ、関係者ともども、非常に失望しているところであります。

つきましては、地域の実情をご賢察のうえ、多摩都市モノレールの箱根ヶ崎方面への早期事業化と延長線上にある羽村市ルートの早期整備路線化及び早期事業化につきまして、重ねて要請する次第であります。

平成四年十二月十八日

東京都知事

鈴木 俊一 殿

羽村市長 井上 篤太郎

羽村市議長 中野 達雄

羽村市多摩都市モノレール  
建設促進特別委員長

櫻沢 一 昭